

第3章 計画策定にあたっての課題

1 現況・特性と課題

市の個性を活かしながら水と緑のまちづくりを進め、すこやかな市民生活を実現するために、これからの10年間に対応が求められる課題について、次のように整理しています。

水と緑の現況・特性	課 題
<p>水辺、樹林、農地などの自然的資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ○河川や水路、池沼や湿地などの水辺、市内に多く存在する屋敷林、広大な農地など、自然的・郷土的な資源が残されている。 ○県内でも希少な動植物が生息・生育する。 ○都市構造の変化から、市街地でみられる生きものが増えるなど動植物相が変化しつつある。 	<p>水と緑の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水辺を、街や暮らしに潤いをもたらす身近な存在として、積極的に保全する。 ○樹木・樹林、農地など、郷土の緑をできるだけ多く保全する。 ○河川や水路、池沼や湿地は、生物多様性と快適性をともに向上するよう保全・活用する。
<p>市街地の水と緑</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公園などオープンスペースが多い。 ○工場緑地、公園など、新しい緑づくりに取り組んでいる。 ○緑のカーテンの推進など、公共施設の緑化に取り組んでいる。 ○市街地内の民有地の緑はそれほど多くなく、花壇や花木などの彩りが少ない。 	<p>市街地の水と緑づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見える緑、身近な緑を増やして、市民生活の快適性と防災機能の向上を図る。 ○身近な水と緑の空間を、多くの市民に愛され、ふるさとも感じる空間として再生する。 ○身近な公園は、緑を増やし、日常的に利用しやすく、親しみのもてる空間へと再整備を進める。
<p>骨格となる水と緑</p> <ul style="list-style-type: none"> ○池沼や湿地、大きな公園や集落を代表する屋敷林など、水と緑の拠点が整備されていないものが多く、十分に活かされていない。 ○水と緑の拠点同士が単独で存在し、相互のつながりがなく、ネットワークが不十分である。 	<p>豊かな水と緑の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○河川や水路沿いの道や田のあぜ道などを軸に、市民が水と緑にふれあいながら気持ちよく歩けるネットワークを形成する。 ○市内を縦横に走る道路沿いの街路樹と、それぞれの水と緑の拠点を接続し、生態的回廊を形成する。 ○身近に野生動植物の存在を感じられるように、生物多様性に配慮した緑化を行う。
<p>水と緑の質</p> <ul style="list-style-type: none"> ○管理が行き届かず、水と緑の拠点としての質が低下している場合がある。 ○あまり利用されていない公園などもある。 	<p>市民協働による水と緑の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民生活の快適性と生物的な多様性が両立した緑づくりを実践する。 ○緑地の保全や都市緑化の推進は、市民が主体的に行動していくことが重要である。 ○今ある水と緑を市民共有の財産として、市民が自ら将来へと伝えていく。